

Hand in Hand

海を渡る鳥は、波間を漂う流木に憩うという。離婚——それは旅の半ばの一つの出来事。
新たな旅立ちをした女たちはいま手を取り合い、女であるがゆえの偏見と差別に向きあう。
ハンド・イン・ハンドは、生きやすい社会をめざし支えあう女たちの、流木である。

Vol.235

〔年金の男女格差と老後の不安〕

★5000万件の消えた年金問題だけでなく、次から次へと国民の怒りが沸点に達する不始末が噴出し、国会は大揺れ、安倍内閣の支持率は下がりっ放しです。

★本来なら、まず社会保険庁のミスなのだから、政府が責任を持ってマイクロフィルムをスキャンして、それをコンピューターに入力されているものと照合する。それだけでも相当数の件数が統合でき、それを人々に知らせることからすべきで、これは入力に詳しい人は必ずできると言っています。どうも政府のやり方は国民の不安と怒りを増幅しているし、どこまでも「お上」意識があるようです。

★さて、そもそも女性の多くは、結婚して姓や住所が変わる。職も転々とすることが多い。だから、消えた年金の対象者になっている可能性も高いわけです。それだけではありません。私は団塊の世代ですが、勤めていた時の厚生年金は、結婚する時、退会一時金をもらうように言われて、厚生年金の権利を失いました。私のような人は多いはず。

★そして婚姻中、専業主婦であれパートであれ、国民年金は任意加入でしたから、苦しい家計の中で加入しない妻は多く、期間は満たしていても、いわゆる未払いの「カラ期間」が多くて、満額の6万6000円を65歳からもらえる人は少ないのです。夫が死ねば遺族年金が入りますが、離婚したハンドの仲間の皆さんは、きちんと年金記録があっても、多分、厚生年金はなくなり、離婚後入った国民年金部分だけなので、せいぜい月に3万円程度ではないでしょうか。

★この4月から年金の離婚分割ができるようになりましたが、これだって、夫の死亡を待って遺族年金でという選択肢のほ

うが有利だと考える人が多いようです。

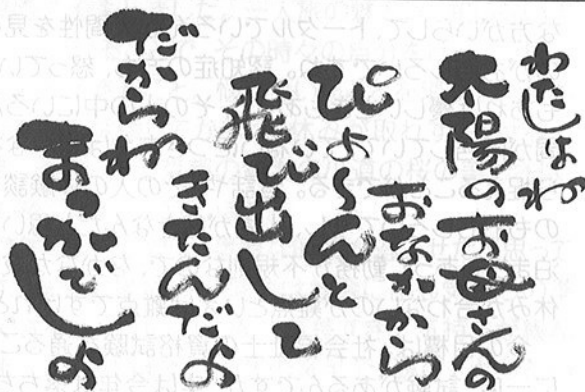
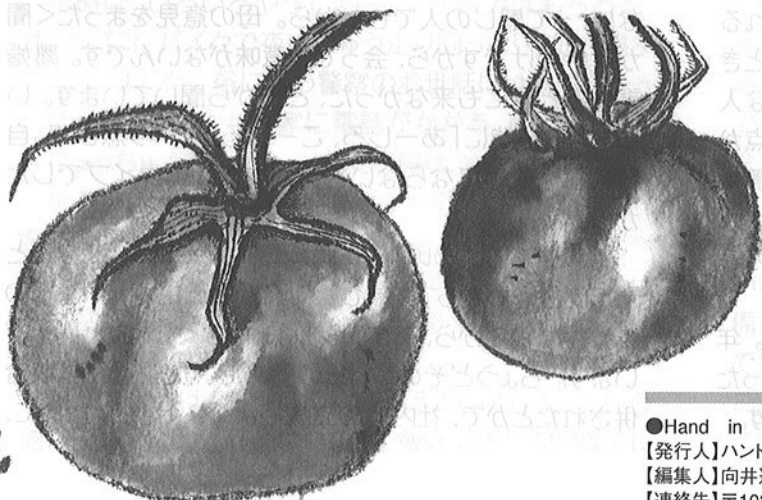
★それは男女の年金格差に問題の根があります。20代の男性正社員の年収を100とした時、同年代の女性正社員は90位でそれほど差はない。しかし、女性は今でも妊娠出産で7割が仕事を辞め、子育て後の再就職では、派遣やパート職に就かざるを得ないことが多いため、50代のパート女性と50代の男性正社員とを比べると、ほぼ28対100なのです。また、定年まで正社員で働き続けた女性でも、昇進昇給で男女差別があり、いずれも年収差がありすぎて、年金にまで男女格差があることは従来も指摘されてきたところです。

★それにしても、真面目に働き、子どもを育ててきた人たちの老後のささやかな安定さえ崩れるような現在の年金制度はどう解決すればいいのでしょうか。

★30年前、70歳以上の人はたった542万人なのに、20～59歳の支える世代は6358万人もいました。2025年の我が国は支える世代は5840万人に減り、70歳以上は2932万人に激増します。その大半は団塊世代以降で、戦争で苦勞したわけではなく、資産もある人が多い。

いっそのこと、資産があって食べていける人には年金は渡さず、暮らしに困る人に集中して支払うことにしてはどうかという意見があります。つまり生命保険などのように、死んだり病気にならなければ良かったと思うのと同じで、年金の掛け金を負担することは貧乏にならずに良かった、そして社会の安定と私たちの子孫のため掛け捨てることに発想を切り替えることが必要だということです。皆さんはどう思われますか。

(円より子)



照

画と書：浅野照子

●Hand in Hand 第235号 【発行日】2007年7月1日
【発行人】ハンド・イン・ハンドの会(代表 円より子)：(株)現代家族問題研究所内
【編集人】向井通江 長島千春 藤岡郁子 【印刷】(株)ニシカワインフォーメーションサービス
【連絡先】〒102-0082 千代田区一番町4-42-6F TEL:03-3261-1835 FAX:03-3261-1836
http://www.madoka-yoriko.jp/ http://www.gendai-kazoku.jp/ nojiri@kazoku-mondai.co.jp

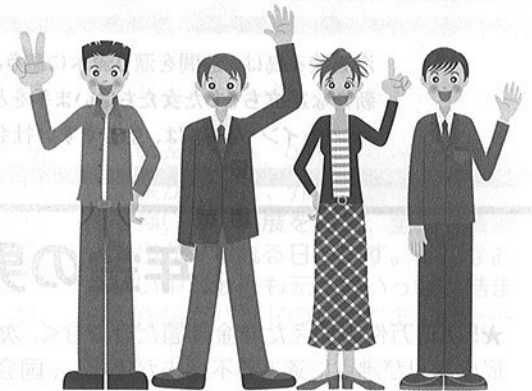
不連続
シリーズ

もっと知りたい、子どもの気持ち

昨年後半、あるお母さんから編集室に次のようなお手紙が届きました。

「息子が3人います。次男は別居から離婚にかけて、父と母の間と、父親の姉宅とを転々とさせられ、思春期に一番つらい思いをさせてしまっています。この春(2006年)、専門学校を卒業し、自宅から遠くないところに就職できました。私のところには1年半前(2005年の春)頃に帰って、兄25歳、弟18歳との4人暮らしです。今回、インタビューをしていただければ、私も息子もなにか荷をおろして、次に進めるような気がしています」。

高校2年の春から母親の家を離れ、成人してからまた一緒に暮らし始めて、今は就職したばかりで勤務が不規則な息子さんと、じっくりと話し合う機会がなかなか持てないとのこと。息子さんのお休みの日にお話を聞くことができました。

インタビュー
2007年
4月

仕事が自分を成長させ、客観的に親を見られるように

[23歳/A・Yさん/男性/介護施設職員/埼玉県在住]

●老人や子どもと関わる仕事がしたい

介護施設で働き始めてちょうど1年になります。職場は家から自転車です。70~80人規模の会社で、経営者を始め若い人が多いので、入ったばかりでもやりたいことがしっかりあれば応援してくれる、そんな雰囲気が気に入っています。もともと子どもが大好きで、ほんとうは保育士になりたかったんですが、求人状況がよくないんですよ。海外のケースでは、ソーシャルワーカーは、高齢者だけでなく、児童、障がい者、生活保護を受けている方など、わりと幅広い方々と関わりを持って働けると知り、今の仕事を目指しました。現状は、高齢者と障がい者の方々を対象とした仕事ですが、いずれ子どもとも関わればいいな、というのが夢の一つです。

仕事は好きですよ。他の仕事をしている自分は、想像ができませんから。一言で「高齢者」と言っても、いろんな方がいらして、トータルでいろんな人間性を見られるのがおもしろいですね。認知症の方も、怒っているときもあれば優しいときもあって、その人の中にいろんな人間が同居していて、ていねいにつきあえば様々な視点から捉えることができる。昔話や、その人の体験談を聞くのもおもしろいですし、人間が好きなんだと思います。泊まりもあって勤務が不規則なので、なかなか友だちと休みが合わないのが難点といえば難点ですけど。

今の目標は、社会福祉士の資格試験を通ること。年に一度、試験があるんですが、実は今年は落ちちゃったんです。来年1月の試験を目指して、勉強をしています。

●一方的に物事を押しつける父の元から別居

両親の離婚、ですか？ うーん、離婚したタイミング自体はよくわかっていません。別居したのは中学2年生のときで、その1、2ヶ月前に家から歩いて15分くらいのところにアパートの部屋を借りて、少しずつ、自分たちも手伝って荷物を運び出しました。その間、親父はまったくそれには気づいていなかったみたい。で、ある日、親父が会社に行っている間に、いきなり引っ越した、といった感じです。別居は、高校生だった兄と母が話し合って決めたんだと思います。まあ、子どもたちは3人とも、父親とはもう一緒にいたくない、というのが本音でしたし。別居後に、「一緒に住んでいないんだったら離婚すればいいじゃん」と、軽く言ったのは覚えています。

その後、何度か親父が新居に押しつけてきたことはあります。でもドアを開けなかった。親父は、話が通じない、って感じの人でしたから。母の意見をまったく聞かないわけですから、会っても意味がないんです。離婚調停のときにも来なかった、と母から聞いています。いつも、一方的に「あーしろ、こーしろ」という感じで、自分の思うようにならないと気がすまないタイプでしたから。

保育園くらいの頃から、両親の仲があまりよくないと言うことはわかっていました。後から母にも、一番下の弟が生まれてから、あまりうまくいかなかったと聞いています。ちょうどその頃、父の勤めていた銀行が吸収合併されたとかで、社内での立場もよくなかったために、

ストレスも溜まっていたんでしょね。人づき合いもいいほうではなかっただけに、そのはげ口が家庭に向いたのかもしれない。

子どもの頃に親父に遊んでもらったり、どこかに一緒に行ったり、という思い出は一つもないんですよ。仕事人間で、帰るのもいつも遅かったですし。あるのは、嫌な思い出だけ。日付が変わった頃に帰ってきた親父に、小学生の自分と4つ下の弟が起こされて、親父が寝ている横で、わけもわからず正座させられ続けたりとか。親父が寝た頃に、母がそっと「もういいから」と助け出しに来てくれました。うまくコミュニケーションを取れるタイプじゃなかったから、今にして思うと、親父も寂しかったのかも、とは思いますが。

両親がケンカをしている姿は、直接、見たことはありません。でも、たぶん親父は母に暴力を振るっていたんじゃないか、とは思いますが。とにかく、当時は専業主婦だった母には「絶対服従」を強いていたというイメージでしたから。そういう場面は見たくないので、父が休みで家にいる土日は、中学生になってからは外に遊びに出ていました。兄は、よくぶつかって喧嘩していたみたいです。とにかく成績でしか子どもを見ずに、「勉強しろ」の一点張りでしたから。まだ小さかった弟は、家から逃げるわけにも行かず、その頃に感じた親父への恐怖感が今でもトラウマになっているみたいで、「今後も絶対に親父とはつきあいたくない」と言っています。今でも、兄と自分は親父と連絡をとっていますが、母と弟は連絡していませんね。

●不安定な思春期に預けられた父の姉宅で「話をきいてもらった」ことで、大人になれた

高校2年の5月に、学校を辞めました。おもしろくなかったし、友だちもできなかつたし。その頃から、自分だけ、父親の家と一緒に住むようになりました。まあ、別居後の中学3年くらいから、いろいろ悪さをしていましたから、母の手には負えなくなっていたのかもしれない。兄と親父が話し合っ、そうだったみたいです。

当時は、いろいろやってました。ケンカはもちろん、酒、タバコ、バイクで夜中じゅう走り回ったり、好き勝手やっていました。俗に言う警察のお世話にはならなかつたけれど、補導されて家に電話がかかる、くらいのことはしょっちゅうでした。その頃の兄は、父親代わりみたいな存在で、朝帰りして家のドアを開けたら、いきなり殴られたなんていうことも。ある日、兄に「親父の家へ行け」と言い渡されましたが、別に抵抗もしませんでした。兄としては、憔悴している母を見かねてのことだったのだと思います。

父との生活は、お互いに好き勝手やっていた、という感じです。父は昼間いないし、ご飯はてきとうに電子レ

ンジで暖めて納豆をかけて食べたり、とか。小遣いはテーブルの上においてあったし、たまにすれ違おうと「ちゃんとやれ」と繰り返す言うだけでしたから、無視して遊んでいましたね。でも、4ヵ月後の9月からは定時制高校に通うことになり、その学費は出してもらいました。子どもが好きで保育士になろうと思うと、高校を出て専門学校に行く必要がありましたから。

専門学校に入る前後に、親父がもうめんどうを見られないと思ったのか、親戚の家に預けられました。親父の姉一家のところ、伯母とその旦那、9歳年上の従姉が同居していました。専門学校には最初の2年間、そこから通って、卒業まであと1年の3年生になったときに母のところに戻りました。「卒業して仕事を始める前に、戻って一緒に暮らしたほうがいいよ」と伯母に言われて。

伯母の家に行ったことは、結果的によかったと思っています。「あれをしろ、学校へ行け」と命令口調でしか言わない父とは違って、伯母の家族はよく話を聞いてくれて、自分の考えをわかろうとしてくれた。一緒に食事をしながら、ほんとうによく話をしました。特にうるさいことも言われなかつたし、自分も一番遊びたい盛りを過ぎて落ち着き始めていた頃だから、それまでよりはグンとまじめに専門学校に通うようになっていましたし。あの時期に伯母の家で過ごしたから、母の元に戻ってからも、ワンクッションおいて、最初からぶつからずに互いの話を聞けるようになったんだと思っています。

●ひとりの時間と、なんでも話せる仲間の存在

専門学校時代は、勉強自体も2年生になった頃からおもしろいと思うようになりました。学校にいる時間は、よく勉強したと思います。ただ、夜のコンビニでアルバイトをして、朝6時まで働いていたので、昼夜逆転して休んでしまうこともありました。

バイトしたのは、その頃、一人で旅するのが好きになっていたの、主にその費用を稼ぐためです。休みにはフラッと、いろんなところに旅をしました。青春18切符を活用して、カプセルホテルに泊まったり、夏はベンチで野宿なんかもしました。一人旅の魅力は、知らない土地に一人でいることで、その時々自分をけっこう見つめることができること。悩んでいることを消化したりもできました。就職してからは、休みが取れず、行けなくなりましたが、春の京都の哲学の小道の桜の美しさは、今でも臉に焼きついています。

専門学校の3年間は、貴重な時間を過ごせたと思っています。自分の場合、2年間では社会に出る気持ちの準備ができなかつたし、4年間では長すぎて気持ちが緩んでしまったと思います。10代の後半で、遊びもやりたいことも十分にやったという気がしているので、今はけっこう落ち着いて仕事に集中できます。専門学校の友人



を見てみると、就職してから遊びを覚えた連中がいて、それはけっこう大変みたいですね。

自分の場合は、地元で中学時代からの仲間が6人いて、一生つきあっていく友人だと思っています。シングル親家庭の子も一人います。ツルんで、いろいろ悪さをしたけれど、今思い返すと、コンビニや夜の公園や学校の校庭で、女の子のことや先輩のことなど、他愛のない話をひたすらして一緒に時間を過ごしていただいただけなんです。バイクを乗り回して、酒やタバコもやって時々補導されましたから、そういう意味では不良っぽく見られたんですが、隠れたところでやっている連中よりはずっといいかな、と。あの時期に、なんでも話せて、自分が素のままにいられる、一生つきあえる友人と巡り会えてよかったと思います。

今はみんな、それぞれ、まじめに働いていますよ。10代の頃のことを思うと、ウソみたいに(笑)。休みが合わなくて、なかなか会えませんが、将来、子どもが生まれても、その子ども同士も一緒に遊ばせようと話しています。

●安定している今の暮らしと、将来の夢

働き始めてから、家には毎月、2万円入れています。それとは別に2~3万円を母に渡して、自分の代わりに貯金してもらっています。自分だと貯まりそうもないので(笑)。母と兄弟3人の暮らしは、それなりに安定していると思います。時々飯も一緒に食べて、近況報告をしあったりしています。昨晚も、兄の彼女の話から「早く結婚しろよ」とか、結婚式には親父を呼ぶのか、とかいう話になって。

自分にも同じ歳の、精神障がい者施設に勤めている彼女がいますが、まだお互いに若くて、すぐには結婚を考えていません。でも、一緒になったら、母の近くに住もうと思っています。共稼ぎになるので、孫のめんどうを見て欲しいかなと。母はまだ、おばあちゃんになるのはイヤだといっていますね(笑)。兄は将来、母と暮らそうと思っているみたいです。

子どもはほんとうに好きで、今も小さい子をみかけると、思わず抱っこをしたくなります。自分自身の子どもは、2人は欲しい。それ以上は経済的に無理だと思

います。男の子が生まれたら、キャッチボールをしたいと思っています。兄とはしたけれど、父とはした記憶がありません。

一方的に物事を押しついたり、暴力を振るう夫・父親にだけはなりたくないです。思いをぶつけあうケンカはいいけれど、言い切れないときに手が出るのは最悪だと思うから。でも、不安なのは、自分には親父の血が流れているということ。同じようなことを自分の子どもにしてしまったら、と思うと少し怖い。そうなりさえしなければいいと思っています。

●父と母に、今伝えたいこと

両親の離婚が与えた影響ですか？ まあ、あったと言えるかもしれません。前提として父が違うタイプの人間で、もしも両親が離婚していなかったら、自分も違う人生を歩んだのかな、とは思いますが。例えば、ふつうに大学まで行っていたかも。でも、あのまま離婚せず、あの家庭で育ったら、家庭内暴力とかに走ったかもしれないという気がしますし、離婚して正解だったんじゃないですか。

自分を一番変えたのは、今の仕事に就いたことかもしれません。仕事で学んだのは、「いろいろな視点からものごとを見る」ということ。両親のことも、外からの視点で考えられるようになりました。

母には、「ありがとう」の一言です。今もめんどうを見てもらっているけれど、今後もよろしくって感じで(笑)。もしも再婚ということになっても、もちろんOKです。今もすでにそうなのかもしれませんが、子どものことは気にせず、自分の好きなことをやっていって欲しいですね。

父には、「昔のことは気にせずに、幸せになってください」と言いたいです。今後も一緒に暮らす気はありませんが、身体でも壊せば様子を見に行こうとは思いますが、孫ができれば会わせようとも思っています。過去は過去、と思わないと前には進めませんからね。

◎「うちの子の話を聞いて欲しい」というご希望がありましたら、メールや手紙、FAXなどで、編集室までご連絡ください。ライターが連絡をして、インタビュー取材をさせていただきます。直接、話をするのは苦手というお子さんとは、電話やメールのやりとりで対応させていただきます。

◎また、「親の気持ち」への投稿記事も募集しています。こちら、文章を書くのは苦手だけれど話をするのならOKという方は、ご一報ください。「子ども…」と同様に、対応させていただきます。

★2007ハンド夏合宿★

8月12日(日)～13日(月)

テーマは「社会保障と暮らし」

恒例の夏合宿を1泊2日で行います。

子育て真っ最中の人は、廃止される生活保護の母子加算や来年4月に削減される児童扶養手当の問題で不安でしょう。子育てを終えた人は年金や、老後の暮らしのことに関心があるのでは？

講師や円より子さんのお話、ハンドの先輩の体験談から、きっと参考になる情報に出会えると思います。悩みを抱えている人も一人で悩まず、仲間に話してアドバイスをもらってはいかがでしょう。

深谷や森に囲まれた場所で、リフレッシュできます。一日参加もお子さま連れも大歓迎です。

◆申し込みの詳細◆

- ◎会場：国立女性教育会館(埼玉県嵐山町)
東武東上線武蔵嵐山駅下車徒歩15分
- ◎定員：大人30人、子ども10名
- ◎参加費：大人4,000円(1日参加2,000円)
子ども保険料込3,000円(1日参加1,500円)
※いずれも懇親会費込。食費、交通費は別途負担
- ◎その他：洗面道具、タオル、寝間着等、各自持参
- ◎申込：申込金1,000円を添え、住所、氏名、生年月日、電話番号を明記し、8月7日(火)までに事務所・長島まで。申込金をご返却できません。

※ベビーシッターさん大募集!!

◎プログラム◎

■8月12日(日)■

- 13:00～受付 (宿泊A棟2Fミーティングルーム)
- 13:30～14:00 円より子あいさつ
- 14:00～15:00 自己紹介
- 15:00～17:00 講演「社会保障と暮らし」
講師：猪熊律子さん(新聞記者)
- 17:00～19:00 夕食、入浴
- 19:00～21:00 懇談会

■8月13日(月)■

- 7:30～8:30 朝食
- 9:30～12:00 「女性と社会保障」
講師：円より子さん



弁護士110番

夫の借金

Q

結婚して35年、2人の子どもは結婚して独立しました。夫は15年前に500万円の借金をし、子どもと私でやっとの思いで返済しましたが、昨年、夫がまた、300万円の借金をしていたことが発覚。これも、年金生活を迎えるための預金をはたいて返済しました。

夫は浮気をしているわけでも、賭け事をしていないわけでもないのですが、借金の内容については一切、一言言わないと言っています。今後の生活が不安です。

夫は、別居して住み込みの仕事を見つけてと言いますが、いつまた借金をしてこちらに請求が来るかと思うと不安で、離婚するしかないと思います。

現在、私65歳、夫68歳。私は基礎年金で月4万円ですが、夫は月20万円もらっています。年金分割をしたり、慰謝料はもらえますか。また、代わりに返済した借金は返してもらえないでしょうか。

A 年金分割については、この4月から、年金分割の制度が始まりましたので、離婚の際して、夫婦で話し合うなどをして、婚姻期間中の厚生年金の納付記録を分割することが出来ます。合意ができたときには公正証書等を作成し、合意ができないときは裁判所に申し立てて按分割



〈回答者〉

弁護士 松山 理香

☎〇六・六一三〇・五六一〇

合を決めてもらいます。そして、社会保障事務所に年金分割の請求を行うこととなります。

ご相談者の場合は、50歳以上ですから、事前に社会保障事務所に問い合わせをして、分割した場合の老齢厚生年金の見込額を教えてください。また、借金の見込額を教えてください。また、借金の見込額を教えてください。また、借金の見込額を教えてください。

慰謝料は、相手方の有責不法な行為によって離婚することになったことについて、相手方に対して請求できるものです。ご相談の内容からは、結婚の破綻の原因は、夫にあるようですので、ご相談者が書かれていることを前提にすると、慰謝料をもらうことができるように思われます。

ただ、夫にも言い分があるかもしれませんが、実際に慰謝料がもらえるかは、さらに具体的事情を確認する必要があります。

代わりに返済をした借金については、貸金や立替金などとして返してもらったことが考えられます。ただし、ご相談の内容からは、誰の財産で借金の返済をされたかがよく分かりません。

実際に認められるかや、どの程度認められるかは、具体的な事情によって異なります。慰謝料のことも含めて、個別に弁護士に相談して下さい。

《家計簿公開》

今だからわかること、伝えたいこと。

～ 離婚直後と、17年後の今を比較して ～

第163号 東京都 K・Sさん(56歳)

◎1人でがんばらずに、社会制度を利用し、周りの人に頼りましょう

17年前の離婚時に、子ども3人を私が引き取り、4人家族でスタートしました。長女は4年前に結婚、長男は今年就職をして1人ずつ家を出て行き、今は次女と2人暮らしです。

離婚当時、元夫からの養育費は全くなかった。親兄弟からも支援を期待できなかった。経済的な不安から精神的に不安定な時期がありました。でも、離婚1年後から約3年間、児童扶養手当等をもらうことができ、そこから少し余裕ができたと感じています。児童

扶養手当は、離婚2年後に公営住宅に入れたこととともに、母子の経済的基盤を安定させるのに十分役割を果たしたと思います。そういった社会的援助がなければ、子どもたちにもそれなりの教育を受けさせ、社会に送り出すことはできなかったかもしれません。今は子どもたちも全員正社員として働き、税金を払うことで、ささやかながらも社会に貢献することができるようになりました。

また、経済的なことは別に、ハンドの会やジュニアハンド、地域コミュニティなどで、私自身と子どもたちが精神的に助けられ、ここまで来ることができたのだと感謝しています。離婚前後の私の精神的危機や、思春期の子どもたちの危うい時期に、私一人では到底対処できなかったと思います。

ですから、もしも今、離婚前後の闇

の中でもがいていらっしゃる方がいらしたら、「つらいときは1人でがんばらずに、社会資源を利用したり、周りの人を頼ってみては？」と、伝えたいですね。そして、私自身の大きな支えになった児童扶養手当が切り捨てられようとしている今、「その手当がなくなるということは、母子がステップアップできるチャンスをつぶすことなんだ」ということを国や政治家のみなさんに、ぜひ知って欲しいと思っています。

◎結婚後も働き続けていたことが、離婚後の力につながった

不思議なもので、あんなに苦しかった離婚前後のことも、いまなら冷静に振り返ることができます。

元夫は、もともときちんと生活費を入れるタイプではなかった。結婚後も、私はほとんど途切れることなく働き続けていました。ただ、産休や引越しのために何度も転職せざるを得ず、子持ちの女性が就職する厳しさや働き続ける難しさは、離婚を考える前から身に沁みていました。ですから、働きながらいろいろな資格も取る努力をしました。残念ながら、それが生かされたことは、ほとんどありませんでしたが、大変ではありましたが、結婚後も「働き続けていた」ことが、離婚後の大きな支えになったことは確かです。

離婚を考え始めたのは、3人目の子どもが生まれる少し前から、元夫がまったく生活費を入れなくなったため、夫婦仲が極端に悪くなりました。元夫

●離婚1年後の家計簿● (1991年10月分)

[家族構成]

私 40歳(会社員)
長女 15歳(高1)
次女 11歳(小5)
長男 7歳(小2)

[住居]

賃貸民間アパート・2DK
(6畳和室と8畳DK)

★収入★

月収(ボーナス含む) 315,000円
児童育成手当 22,000円
奨学金(貸付) 11,000円

合計 348,000円

★支出★

家賃 110,210円
食費 85,000円
教育費 50,000円
水道・光熱費 12,000円
電話、新聞購読費等 12,500円
保険料 6,910円
子どもの小遣い 4,500円
被服費 15,000円
交際費・娯楽費 15,000円
雑費 10,000円
予備費(臨時出費等) 26,880円

合計 348,000円

●現在の家計簿● (2007年5月分)

[家族構成]

私 56歳(会社員)
次女 26歳(会社員)
※長女は結婚して近くに居住
※長男は就職して地方勤務

[住居]

公営住宅(3DK)に
離婚2年後から居住

★収入★

給料(手取り) 258,625円

※ボーナスを12分割して加えると、

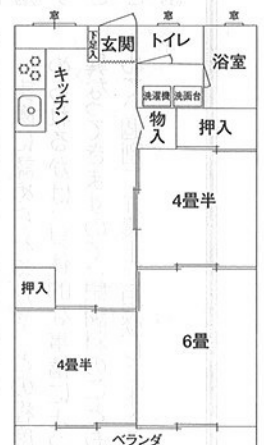
1カ月あたりの収入は 375,000円

★支出★

家賃 66,800円
食費 48,956円
水道・光熱費 23,451円
電話、新聞購読費等 15,213円
国民共済保険、年金 15,870円
交際費・娯楽費 19,350円
テレビ等購入費 223,650円
雑費 5,944円

合計 419,234円

《現在の住居》



は、人に雇われて働くのは嫌だと自分で仕事を始めていましたが、うまくいかずに借金もかさみ、生活費も入れることのできない状態になっていました。私一人の収入で家族5人を支えなくてはならず、愛想も尽き果てて離婚しました。

そのころはまったく理解できませんでしたが、後々、私なりに考えて結論に達したのは、元夫は自己実現などとはかけ離れた生育歴があるため、30半ばの当時、この時期を逃したら二度と何もできないという心情だったのか、子どもの生活よりも自分の夢を選んだのだと思います。普通だったら子どもが生まれたら自分の夢はあきらめて、子どもの幸福をまず考えるはずだと思うのですが、元夫には親として必要な成熟さが育っていなかったのでしょう。少なくとも、親になろうという努力を放棄したのだと思っています。

◎子育てから学んだこと

離婚後、子育てでは、ずいぶんと振り回されました。特に息子は、不登校に始まり、家庭内暴力、引きこもり、と、彼自身も辛かったでしょうが、私たち家族にとっても大変な時期が過ぎました。私自身、親として、また人間として、ずいぶんと鍛えられたように思います。少し遠回りはしましたが、今年、就職して巣立っていきました。今では言いたいことを話し合える存在です。

子どもたちが巣立って、さみしいと思う間もなく、昨年、初孫が生まれました。“子育ての失敗”と言っては子どもたちに申し訳ないのですが、まずかったなと思う点は、孫の母親である長女には折に触れて伝え、子育ての参考にしてもらっています。

何よりも子育て中に夫婦仲が悪かったこと、これが他のほとんどのことでも悪循環になっていたと思います。でも私の場合、どうしようもできなかったのですけれど。

具体的には、小さい頃、子どもをたくさん抱きしめてやれなかったこと。(赤ちゃんのときは抱っこもおんぶもよくしていたのに)。子どもといっても人格をもった1人の人間であることに気がつかなかったこと。それから、子どもと共有する時間が少なかったこと。もっともっと子ども中心に生活すべきでした。経済的なことを優先して精神的なケアが欠けていました。例えば子どもを公園に連れて行っても形だけ。子どもは滑り台の高いところに立った

誇らしい自分の姿を見て欲しいのに、私は本ばかり(それも離婚関係の本)読んでいて、子どものほうは見ていなかったように思います。

長女は、赤ん坊がとても可愛いのでぜひ2人目も産むそうです。私も孫の成長が、これからの楽しみのひとつになりました。

◎これからの生活の基盤は… 年金・子どもからの返済金

家計のうち家電品の購入費以外が通常の出費です。この4月に末っ子が就職し、地方勤務で家を出たのを機に、私自身の娯楽のためにお金を使いました。6月からは衛星放送も見られるように手続きをし、電話、インターネットとセットで契約をしています。それで1万円ぐらいの出費増になるはずですが、また6月からは住民税が8000円ぐら上がり、収入減です。

今の関心事はなんといっても老後の年金。今年の初め、年金の受け取り予想額を社会保険事務所で出してもらいました。現在の収入を60歳まで維持し、450ヶ月かけた前提で60歳で854,600円、63歳で1,495,200円、65歳で1,597,500円の支給です。それに加えて国民共済年金を20年ぐらいかけていてそれが60歳から毎月2万円出るはずですが、ただ、あくまでも予定であって、支給開始時期を遅らせるとの噂もあり、年金を受けながら働かざるを得ません。

子どもの教育費がいらなくなった今、せせと貯金をするのはもちろんですが、最終的には子どもたちを頼ることになるでしょう。

子どもたちは高校卒業1年後からは大人扱いをし、学費も含めて大きな出費は私からのローンにしてきました。自分のお金で夢を実現することでモチベーションを高め、失敗しても自分で責任をとらせたいと思ったのと、返済金を私の老後の生活費の足しにしようと思ったからです。でも、実のところ、子どもが生まれたり、1人暮らしを始めたりして生活が大変そうなので、借金を返してなんて言いにくいですね。同居の次女は、いま毎月2~4万円の返済のほかに2万円入れてくれています。生活費には使わず、貯金しています。次女の結婚の祝い金に化けるか、私の老後の生活費に使うか、どちらかでしょう。私が今の会社をやめたとき、年金生活に入ったら、他の二人に

は請求するかもしれません。

◎老後の不安と楽しみ

今の会社は、三番目の子が生まれた後、何年間かパートで働いていたことがあり、離婚して8ヶ月後に正社員として入社しました。今年で16年になります。62歳が定年ですので、あと6年間は働けるわけですが、仕事のIT化にだんだんついていけなくなっているの、別の職場でパートでの働き方を考えています。ただ、矯正視力がひどく悪く、腰痛も持っているのを見つけるのはなかなか困難かもしれません。

また、これからは格差社会で若者たちや社会が荒れて、老人がますますターゲットになるのではと不安です。オレオレ詐欺もそうですし、白昼に歩いているところを襲われたりとかしないともかぎりませんし。

ここ数年、続けているのが韓国語の勉強。視力がついていくまでは学校に通うつもりですけど、その後も独学は続けたいです。韓流ブームで受講生もほとんど中年以降の女性。ですから、頭がさびついて他の受講生についていけないということもありません。外国語を勉強することは脳の老化防止にもなると思いますしね。行けるうちは韓国へ旅行にも行って、本もたくさん集めたいです。韓国の本は翻訳が少ないので、辞書をひきひき本を読むのでも、電子辞書がとても便利で楽です。韓国語が役に立つ、中高年向けの仕事があると嬉しい、なんて贅沢でしょうか。

これからの多少の贅沢や、わがままは、いままで頑張ってきたご褒美じゃないかな、と思っているんですけど(笑)。

★はい、頑張っていたらしたことへのご褒美だと思いますよ。Kさんの苦労や大変さは、私もその時々で見聞きしてきましたから、ここで語られているほどあっさりとしたものではなかったことは知っているつもりです。いま渦中で悩んでいる方は、いつかはKさんのように、笑って客観的に振り返れる日が来るということ胸に留めておきましょう。もちろん、それ相応の努力がその裏にはあるということも一緒に。そして、こんな風に、後に続く人たちに足跡とメッセージを残していけるといいですね。(円より子)
